

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告（2016 年 11 月 5 日）〉

- I. 各種委員会の活動について
- II. 第 27 回大会（香川大学教育学部附属高松小学校・香川大学教育学部）について
- III. 次期大会について
- IV. 30 周年記念事業の準備について
- V. 次期理事及び代表理事選挙について
- VI. 連絡先不明者の扱いについて
- VII. 理事会、委員会等の出席に伴う宿泊の扱いについて
- VIII. その他
- IX. 事務局報告

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告（2016 年 11 月 5 日）

定例理事会が 11 月 5 日（金）10 時 00 分から 12 時 30 分まで、お茶の水女子大学文教育学部 1 号館第一会議室にて開催されました。事務局 3 名を含む理事 10 名、次期大会開催校（岡山大学）より、住野実行委員長、桑原事務局長が参加されました。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会（研究奨励賞審査委員会を含む）

根津副委員長より、資料に基づき『カリキュラム研究』第 26 号の編集委員会開催の報告、紀要の内容（図書紹介、研究奨励賞の推薦、第 27 回大会報告、研究集会報告と秋のセミナー、海外カリキュラム研究情報、学会彙報）について執筆依頼が行われた。

2. 国際交流委員会

澤田副委員長より、資料に基づき第 28 回大会課題研究の提案（中間報告）、海外カリキュラム研究情報への依頼原稿調整状況、国際学会の情報提供を推進することについて説明された。課題研究提案について意見が出された。

3. 研究・広報委員会

西岡副委員長・小泉委員より、資料に基づき活動報告・活動計画について説明された。第 28 回大会課題研究の提案（中間報告）が行われた。課題研究Ⅰ～Ⅳの日程調整（原則は、Ⅰ・ⅡとⅢ・Ⅳの曜日（土または日）は隔年で交代。）を 3 月理事会で決定することが確認された。登壇者候補への内諾を準備することとする。紀要（第 27 号）の書式と大会の発表要旨の書式を合わせるについて検討依頼され、審議の上、課題研究とシンポジウムについては、全体 1 頁＋各登壇者 2 頁の体裁で紀要に組み込むこと、第 28 回大会より要旨書式を紀要に合わせて変更することが了承された。

小泉理事より「研究集会」の基本方針確認の上、第 8 回研究集会についての日程（3 月理事会開催日の午後）と発表者、発表題目についての提案がなされた。登壇者の範囲に関する議論がなされ、原則として、研究者は会員とし、実践者は非会員も認めることが了解された。

天笠委員長より「セミナー」について、「秋のセミナー2016」の検討経過と内容が説明された。

第 8 回研究集会

- コーディネーター 小泉、黒田
- 9 月中に理事より、発表候補者を推薦していただき、それを集約し、11 月理事会にコーディネーターより原案を提出。審議し、決定するという手続きに則り、下記のとおり提案。
- 3 月理事会時に開催を希望：2017 年 3 月 11 日（土）午後

***その後、3 月 5 日（日）午後に変更**

【発表者と発表題目】

奥村好美（兵庫教育大学・講師）

「オランダの学校評価から学ぶ

—豊かな学びと学校の多様性の保障の視点から—」（仮）

内藤恵子（元仙台市立七北田小学校・校長）・

小泉祥一（白鷗大学教育学部・教授）

「新教科『地域共生科』開発の意義と効果

—地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に—」（仮）

Ⅱ 第 27 回大会（香川大学教育学部附属高松小学校・香川大学教育学部）について

1. 大会収支報告書

香川大学附属高松小学校黒田大会事務局より、資料に基づき大会収支報告がなされた。黒字分は学会に返納されることとした。

日本カリキュラム学会第27回（香川大学・附属高松小学校）大会 収支報告書

I. 収入

(単位：円)

費目	金額	内訳	備考
学会補助金	650,000		
参加費	726,500	一般会員：3,000円×161人=483,000円 学生会員：2,000円×19人=38,000円 臨時会員：3,500円×51人=178,500円 団体会員：3,000円×9人=27,000円	会員参加者総数：266名 (加えて公開シンポジウムのみ参加者約312名)
研究交流会費	440,500	一般会員：4,000円×90人=360,000円 附属高小：3,500円×23人=80,500円	
広告収入	240,000	20,000円：6件（有斐閣、教育情報出版、廣済堂あかつき、不二出版、風間書房、北大路書房） 30,000円：4件（一藝社、日本図書センター、東京書籍、東信堂）	
要旨集録販売	9,000	1,500円×6部=9,000円	
雑収入	100,002	香川大学教育学部後援会補助金：100,000 受取利子：2	
計	2,166,002		

II. 支出

(単位：円)

費目	金額	内訳	備考
会場費	114,100		
印刷製本費	488,268	大会プログラム（800部）発表要旨集録（350部）=415,800円 封筒（1000枚）=25,488円 公開シンポジラム（1000枚）=46,980円	
通信費	78,406	大会案内関係=11,108円 広告依頼関係=5,880円 大会プログラム関係=57,018円 発表要旨集録関係（出版社）=4,400円	
消耗品費	262,010	文房具、印刷用紙、トナー等	
シンポ謝金他	139,435	旅費・謝金	125,200円+源泉税分14,235円
事務局員費	539,500	スタッフ謝金=484,500円、昼食費=55,000円	
研究交流会費	323,296	3500円×90人分+追加発注（8,296円）	
運営諸費	22,864	業務委託（国際文献発送手数料）=22,864円	
雑費	432	振込手数料、両替手数料	
計	1,968,311		

III. 収支差額

項目	金額
収入の部	2,166,002
支出の部	1,968,311
収支差額	197,691
内事務局負担	14,235
	211,926（学会本部へ返却）

2016/09/16

日本カリキュラム学会第27回（香川大学・附属高松小学校）大会実行委員会
 実行委員長 北林 雅洋
 事務局長 黒田 拓志



2. 『教育学研究』大会報告案

原案通り、認められた。

日本カリキュラム学会第 27 回大会報告

日本カリキュラム学会第 27 回大会は、2016 年 7 月 2 日～3 日に香川大学教育学部と同附属高松小学校を会場にして開催された。会員等の正式な参加者は 267 名、公開シンポジウムのみの参加者を含めると 300 名を超え、充実した大会となった。

自由研究発表では、19 の分科会が設けられ、65 件の発表があった。各分科会 3～4 件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究は 4 つのテーマが取り上げられた。課題研究 I は、「カリキュラム研究からみたアクティブ・ラーニングの検討」（コーディネーター：藤川聡・村川雅弘・西岡加名恵、司会：藤川聡・村川雅弘）をテーマに、奈須正裕、川地亜弥子、水上丈実から提案がなされた。次期学習指導要領全面改訂に向けて大きなテーマとなっている「アクティブ・ラーニング」に関して、その意図することや具体的取組等について多様な意見交換がなされた。

課題研究 II は「現代社会における主権者教育の課題を問う」（コーディネーター／司会：片上宗二・的場正美）をテーマに、桑原敏典、近藤孝弘、江口勇治から提案があった。2016 年の参議院選挙から選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられ、今後、どのような主権者を育てるかという問題は重要な教育課題である。学校教育だけでなく家庭や地域社会においても育成される主権者としての意識の育成やその具体的な方策について、深まりのある討論がなされた。

課題研究 III では「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題(その 2)―中央教育審議会における政策形成過程の検討を中心として―」（コーディネーター／司会：小泉祥一・石田有記、指定討論者：天笠茂）をテーマに、中野和光、三石初雄、日置光久から提案があった。昨年度の課題研究を継承して設けられたものであり、本年度は、中央教育審議会における教育課程基準の審議状況について、理科を題材として、教育課程論、教科教育論、環境教育論の立場からの各専門家の提案を踏まえ、審議の内容や在り方について議論が深められた。

課題研究 IV では、「PISA の批判的再検討―国際比較学力調査のポリティクス」（コーディネーター／司会：澤田稔・浅沼茂）をテーマに、高山敬太、黒田友紀、松下佳代から提案があった。近年、PISA やこれを取り囲む諸文脈に関して批判も含む再検討が国際的になされている。日本では十分な検討がなされているとは言い難い状況の中で、3 名の提案をもとに議論を行い、本学会における PISA に関する批判的再検討のスタートを切ることができた。

また、公開シンポジウムでは「授業を研究する、カリキュラムを研究する～附属高松小学校の授業実践をもとにして～」(コーディネーター／司会：天笠茂・岡田涼、指定討論者：磯田文雄)をテーマに、石井英真、杉田洋、無藤隆、黒田拓志から提案があり、附属高松小学校で公開された 3 本の授業をもとに、授業とカリキュラムをつなぐ視点について具体的な議論が展開された。(香川大学教育学部附属高松小学校長 北林雅洋)

Ⅲ 次期大会について

次期大会開催校、岡山大学・桑原事務局長より、資料に基づき第 28 回大会の概要について説明された。日程について検討され、6 月 24 日（土）～25 日（日）とすることが決定された。スケジュールについては 3 月理事会で決定することが確認された。公開シンポジウムのテーマ(案)が示され、審議された。次期学習指導要領を主テーマとすることを確認し、議論の切り口や副テーマについて意見交換がなされた。

Ⅳ 30 周年記念事業の準備について

長尾代表理事より、30 周年記念事業（出版企画）について、資料に基づき趣旨・ねらい、内容（素案）、スケジュール、準備委員会、および 3 月理事会にて内容確定を目標とすることなどが説明された。

Ⅴ 次期理事及び代表理事選挙について

松下事務局長より、資料に基づき選挙管理委員の推薦、作業省力化について提案され、了承された。

Ⅵ 連絡先不明者の扱いについて

松下事務局長より、連絡先不明者について、3 年間経過した場合「強制退会」扱いすることが提案された。会則第 8 条に基づき、3 年間で強制退会扱いとすることを申し合わせた。

Ⅶ 理事会、委員会等の出席に伴う宿泊の扱いについて

松下事務局長より、理事会・委員会等の出席に伴う宿泊の扱いについての取り決めの提案がなされた。やむをえない場合は、宿泊費は 11,000 円を上限として、実費支給を可能とすることとなった（要領収書）。

Ⅷ その他

* 次回理事会

日程：2017 年 3 月 5 日（日）10:00～12:00

場所：お茶の水女子大学

■報告事項

Ⅸ 事務局報告（次頁「事務局からのお知らせ」を参照）

1. 会員現況報告
2. 寄贈図書等一覧
3. 会計途中報告

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告（2016年10月20日時点）

■ 会員総数 674名（一般会員596名、学生会員70名、団体会員8件）

※連絡先不明者8名、会員一時資格停止者36名を含む。

注1 前は700名（一般会員613名、学生会員80名、団体会員7件）

※連絡先不明者13名、会員一時資格停止者38名を含む。

注2 2016年度内 新入会員数は44名（一般：30名、学生：13名、団体：1団体）

■ 会費納入率（2016年10月20日時点）

2015年度：完納603名 未納27名 計630名 95.7%

2016年度：完納539名 未納135名 計674名 79.9%

※連絡先不明者8名含む、会員一時資格停止者4名除く。

・新規入会者（2016年6月17日～10月20日）15名

	入会日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2016/6/20	菅原 至	上越教育大学	一般会員	松井千鶴子
2	2016/6/27	中村 仁志	※所属非公開希望	学生会員	事務局
3	2016/6/28	山田 綾	四天王寺大学	一般会員	子安潤
4	2016/6/29	大阪教育大学附属平野小学校	大阪教育大学附属平野小学校	団体会員	峯 明秀
5	2016/6/30	香田 健治	※所属非公開希望	一般会員	事務局
6	2016/6/30	島田 功	※所属非公開希望	一般会員	金本良通
7	2016/7/1	田中 滉至	※所属非公開希望	学生会員	事務局
8	2016/7/27	兼安 章子	九州大学	一般会員	事務局
9	2016/7/29	津山 直樹	※所属非公開希望	学生会員	森茂岳雄
10	2016/7/30	井川 大介	北海道北見市立北小学校	一般会員	事務局
11	2016/8/1	末吉 覚	※所属非公開希望	一般会員	事務局
12	2016/8/4	赤羽 寿夫	東京学芸大学附属国際中等教育学校	一般会員	事務局
13	2016/8/25	内海 志典	※所属非公開希望	一般会員	池野範男
14	2016/9/14	佐藤 環	茨城大学	一般会員	事務局
15	2016/9/30	天間 環	尚綱学院大学	一般会員	事務局

・退会者（2016年6月17日～10月20日）14名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2016/6/21	平野 朝久	東京学芸大学	一般会員
2	2016/7/1	花谷 健一	兵庫県伊丹市立総合教育センター	一般会員
3	2016/7/1	関口 満	群馬県総合教育センター	一般会員
4	2016/7/1	須田 勝彦	北海道大学大学院 教育学研究院	一般会員
5	2016/7/1	亙理 陽一	静岡大学教育学部英語教育講座	一般会員
6	2016/7/1	Ikumi Courcier	英国ダラム大学	一般会員
7	2016/7/1	林 一夫	文部科学省高等教育局企画課	一般会員
8	2016/7/1	安達 仁美	信州大学教育学部	一般会員
9	2016/7/1	金 昭英	東京大学教育学研究科内図書館情報学研究室	学生会員
10	2016/7/1	小松 真理子	広島大学大学院教育学研究科	学生会員
11	2016/7/1	橋本 啓紀	大阪府立りんくう翔南高等学校	一般会員
12	2016/7/1	松本 崇史	徳島こどものとも社	一般会員
13	2016/8/31	阿部 真由美	開智日本橋学園中学校	一般会員
14	2016/9/26	石出 宗人	富山県教育委員会 教職員課	一般会員

2. 寄贈図書一覧（2016年6月29日～2016年10月20日到着分）

	著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
1	赤林英夫・直井道生・ 敷島千鶴(編著)	学力・心理・家庭環境の経済分析—全 国小中学生の追跡調査から見えてき たもの—	有斐閣	2016/6/20	2016/6/29
2	今井福司	日本占領期の学校図書館—アメリカ学 校図書館導入の歴史—	勉誠出版	2016/5/25	2016/6/29
3	米谷淳(編著)	うまくやれる工学のアクティブラーニング OJE	大阪大学出版 会	2016/3/24	2016/6/29
4	西岡加名恵	教科と総合学習のカリキュラム設計— パフォーマンス評価をどう活かすか—	図書文化	2016/4/30	2016/6/29
5	渡部竜也(編訳)	世界初 市民性教育の国家規模カリ キュラム—20世紀初期アメリカNEA社 会科委員会報告書の事例から—	春風社	2016/2/26	2016/8/8
6	昭和女子大学教育研 究会(訳)	ジグソー法ってなに？—みんなが協同 する授業—	丸善プラネット	2016/8/30	2016/9/1
7	山口喜雄	20世紀後半の日本美術科教科書研究	アートセンター サカモト	2008/7/31	2016/10/17

3. 会計途中報告（2016年4月1日～2016年9月30日）

収入の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
学会年会費	4,500,000	4,355,000
入会金	40,000	88,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	36,017
第27回大会収入(除く補助費)	1,350,000	1,516,002
寄付	0	0
前年度繰越金	6,362,223	6,362,223
合計	12,282,223	12,357,242

支出の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
第27回大会補助費	650,000	650,000
第27回大会支出(除く補助費)	1,350,000	1,318,311
第26号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	0
学会研究奨励賞費	50,000	0
会合費(含む交通費)	900,000	19,385
事務局経費	100,000	8,964
事務局外部委託費	1,600,000	1,197,693
ホームページ運用費	250,000	64,800
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	150,000	0
国際交流委員会	100,000	0
研究・広報委員会	300,000	279,349
研究奨励賞審査委員会	100,000	52,508
(小計)	650,000	331,857
30周年記念事業準備費	300,000	0
理事・代表理事選挙経費	50,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	5,422,223	8,706,232
合計	12,282,223	12,357,242

2. 平成28年度（2016年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。8月15日時点での2016年度会費の納入率は70.9%です。納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円）

日本カリキュラム学会研究・広報委員会からのお知らせ

第8回研究集会(第1次案内)

下記のとおり、第8回研究集会を開催いたします。ふるってご参加ください。
本集会は、会員外にも公開しています。ご関心のある方々へのお声かけをお願いいたします。

日 時：2017年3月5日（日）13：30－16：30（受付13：00～）

場 所：お茶の水女子大学（地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」下車、徒歩8分）

参加費：無料

発表内容：

■奥村好美（兵庫教育大学・講師）

「オランダの学校評価と学校改善から学ぶ

－豊かな学びと学校の多様性の視点から－

現在、学校の説明責任が強調される中、真に学校改善に資する学校評価が求められています。「教育の自由」を有するオランダでは、まさに学校評価を通じて、一定水準の教育の質を保証しつつ、いかに子どもたちの豊かな学びを実現しうる多彩な教育実践を守りうるかという問いへの模索が行われています。

本発表では、豊かな学びと学校の多様性という視点からオランダの初等教育における学校評価の展開や学校改善の事例を検討し、日本への示唆も含めてご報告いたします。

■内藤恵子（元仙台市立七北田小学校・校長）・

小泉祥一（白鷗大学教育学部・教授）

「新教科『地域共生科』開発の意義と効果

－地域貢献活動を通して自己形成する子どもの育成を中心に－

現在、中教審において次期学習指導要領の内容が検討され、その中で「学ぶ意義」について強調されています。仙台市立七北田小学校においては、平成21年度から4年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、大学と共同で「学習の社会的意義」と「自己肯定感」に注目し、地域貢献活動を通して学び、子どもの自己形成を促す新教科の開発を行いました。

本発表では、その研究過程を報告するとともに、新教科「地域共生科」開発の今日的意義と「地域共生科」の実際と教育効果について、ご報告いたします。

世話人・コーディネーター：小泉祥一（白鷗大学教育学部教授）

黒田拓志（香川大学教育学部附属高松小学校指導教諭）

問い合わせ先：白鷗大学教育学部 小泉研究室

電話：0285-22-9875（直通、ファックス兼用） E-mail：koizumisho@gmail.com

【重要】次期理事選挙について

来年度、日本カリキュラム学会理事選挙が行われます。2017年3月31日までに当該年度分までの年会費を完納している会員の皆様に、選挙案内文書を発送します。会費納入をよろしくお願いします。

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>